

# 「修了時の姿」の例

## A園「修了時の姿」

- ◆ ドッジボールやサッカーなどは、ルールを自分たちで考えたり、場を工夫したりして進めていく。友達同士で始めた遊びだからこそ、途中で抜けない、ずるいことには異議を言うなどの姿も見られるようになる。多くの幼児が、ボール扱いを小さい子に教える優しい面も発揮するようになる。
- ◆ 自分なりに課題をもって、製作に取り組む。見通しをもって、時間を意識しながら生活するようになる。
- ◆ こま回しやなわとびをするときに、自分なりのめあてをもって取り組むようになる。できるまで頑張ろうとしたり、友達の姿に刺激を受けて挑戦しようとしたりする。友達同士で励まし合ったり、喜び合ったり、コツを伝え合ったりするようになる。
- ◆ 給食の配膳は自分たちで行う。友達の要望を聞きながら量を調節し盛り付けを行い、その際、多い・少ないといった比較する言葉を使うようになる。
- ◆ 当番活動については、友達同士で声を掛け合って責任感をもって取り組むようになる。下学年の台拭きやエプロンの回収にも、意欲的に取り組む。
- ◆ 自分のことは自分でするようになっていく。
- ◆ 一日の振り返りをするときに、学級全体の中で、理由や詳しい内容を言えるようになる。
- ◆ カルタ取りやなわとびをきっかけにして、数えたり、数を表に書こうとしたりする。折り紙を折る回数やできた形、空き箱の大きさや形、長さに遊びの中で気付いてくる。自分の名前の文字にも興味をもっている。
- ◆ 小学校への期待感とともに、登下校の信号の判断や環境の変化に対する不安感を抱く幼児も見られるが、友達や周りの人に支えられて自信をもって行動するようになる。

## B園「修了時の姿」

- ◆ 自分なりの目的や課題に取り組み、考えたり、工夫したり、挑戦したりする気持ちをもって、できるまで頑張ったり、思いが実現するように友達と工夫したり教え合ったりするようになる。
- ◆ 今まで遊んでいた友達以外の幼児との交流が増し、一緒に遊ぶ中で、自分の気持ちや考えをはっきりと伝えようとするようになる。
- ◆ 友達の考えや動きを受け入れ、友達のよさを認め、相談しながら試行錯誤して遊ぶ幼児が増えてくる。
- ◆ 「がんばりカード」を通して、縄跳びや鉄棒などの運動的な遊びに興味をもち、達成感や満足感を味わい、文字や数にも関心をもつようになる。
- ◆ 育てているクワッカスの開花やチューリップの生長を喜んだり、気温の上昇による金魚の動きの変化に気付いたりして、それらを友達同士で伝え合うようになる。
- ◆ 生活する中で、今どうしたらよいのかを、友達の動きを見たり、友達や先生に聞いたり、自分で考えたりしながら、主体的に行動する幼児が多くなってくる。
- ◆ 修了の喜びと寂しさ、小学校入学への期待と不安など多様な感情に揺れながらも、周りの人に支えられながら、自信をもって行動するようになる。

# C園「修了時の姿」

- ◆ あやとりやこま回しなど、できなくて悔しい思いを経験しつつも、友達同士でコツなどを伝え合ったり、繰り返し挑戦し乗り越えたりして、友達と遊ぶことの喜びを味わうようになる。
- ◆ サッカーやドッジボールなど、ルールが複雑化して勝敗が明確になるような遊びの中で、みんなで遊び続けるにはどうしたらよいかを相談しながら、チームの分け方やルール変更などを考え、自分たちで進めていく。
- ◆ 自分で植えたチューリップを大切に思ったり、友達のものと比較したり、変化を喜んだりするようになる。
- ◆ 土の中のカブトムシやゾウムシの幼虫に思いをはせながら、その後どうなるのだろうと、思いを巡らせる。
- ◆ 友達や先生に支えられながら、自信をもって行動するようになる。
- ◆ 小学校の生活を楽しみにしながらも、新しい場や先生、友達に対して不安を感じ、複雑な心情を抱く。

# D園「修了時の姿」

- ◆ ドッジボールをするために、自分たちで集まり主体的に始める。人数を数えて、同じ人数になるようにチーム分けをしている。コート ジョウロの水で描き、年中児も交えて遊ぶようになる。うまくいかなければ先生に援助を求める力も付いてくる。
- ◆ こま回しやなわとび、カルタをして遊ぶとき、挑戦する姿が見られるようになる。悔しい思いをしても、相手を認め、友達にコツを聞いて前に進もうとする。これらの遊びを通して、文字や数量に興味をもつようになる。
- ◆ 年中から継続して遊んできた「こおり鬼」などの鬼遊びを、修了が近づくにつれ、園の思い出として、また楽しみはじめる。ルールを自分たちで共有し、友達の状況を把握するために、「凍ってる？」と確認して、凍っているところから助ける姿が見られる。
- ◆ 友達を認めるような言葉がたくさん出てくる。「～が得意だよね」「～がいいよね」など、友達のよいところに気が付き、それを筋道立てて話すようになる。さらに、自分のよいところにも気が付いてくる。
- ◆ もめ事があっても、友達同士で包み隠さず言い合い、解決に向かうようになる。
- ◆ ジャガイモやサツマイモを育てた畑の引き継ぎを年中児にしな がら、季節の変化に気付くようになる。愛着をもってヒヤシンスの水栽培を行い、生長を喜んだり、花の色を予想したり、水替えを責任もって行ったりする。
- ◆ ランドセルや通学路を話題にして、1年生になることを楽しみにしている。そのようなことから、自信をもって行動する幼児が多く見られるようになる。しかし、中には不安を抱く幼児も見られるが、小学生に優しく言葉を掛けてもらい、周りの人に支えられて安心感をもつようになる。

# E園「修了時の姿」

- ◆ ドッジボールや「田んぼの田」では、自分たちでルールを工夫して遊ぶようになる。チーム間の人数の違いに気付いたり、コートの大きさを変化させたりしながら楽しむようになる。年中児が加わることも多くなり、優しく声を掛けたり力の加減をしたりして、年中児が安心して遊ぶようにも工夫するようになる。年中児にとっては、憧れの存在になり、園生活で必要なことを遊ぶ中で引き継いでいくようになる。
- ◆ 長なわとびや雲梯、鉄棒、こま回しなどして遊ぶときには、挑戦することに喜びを感じるようになる。できるようになりたい気持ち、悔しい気持ちをもとに、繰り返し遊ぶようになる。
- ◆ 給食を運んでくる給食センターの方に、遊ぶ様子を見てもらったり、声を掛けてもらったりしたことを通して、親しみをもって関わるようになる。
- ◆ 友達同士のつながりが深くなり、友達が得意なことを表現すると、気持ちよく認めるようになる。意見の食い違いから、ぶつかり合うこともあるが、自分の思いを十分出し合い、みんなが納得する方向を探るようになる。
- ◆ 虫に詳しい幼児を中心に、虫探しや飼育に興味をもって取り組むようになる。それをきっかけに、友達同士がつながるようになる。「虫がやっと出てきた」と言うなどして、春を感じながら生活する。
- ◆ 毎日の出欠の報告を当番が職員室で行うが、相手の顔を見てしっかり話をするようになる。困ったことがあったときに、先生に援助を求めるような力も付いてくる。
- ◆ 小学生との交流やランドセルの話題を通して、小学校生活への期待が高まってくる。中には、「給食が食べきれなかったらどうしよう」と不安感を抱く幼児も見られるが、小学生との交流の中で言葉を掛けてもらい安心するようになってくる。

# F園「修了時の姿」

- ◆ こま回しやなわとびなどをして遊ぶときには、友達の様子に刺激を受けたり、がんばりカードをきっかけにしたりして、できなかったことに対して継続的に繰り返し挑戦し、友達同士の認め合いや、巻き方、投げ方、跳び方などコツを伝える姿が見られるようになる。
- ◆ ままごとや大型積み木で遊ぶときには、場の設定や役割、世界観について相談するなど、自分のイメージを出し合うようになる。意見の食い違いでもめ事が生じても、みんなで解決策を出し合い、時間を掛けながらも折り合いを付けるようになってくる。いつも、我慢する側になる幼児も、少しずつ自分の意見を出せるようになってきてくる。逆に、結果的に自分の意見を通す幼児も、異議を言う友達の発言で、少しずつ友達の思いに気付くようになってくる。
- ◆ 郵便屋さんごっこやカルタをすることを通して、文字や数に興味をもつようになる。年賀状をきっかけに始まる郵便屋さんごっこでは、文字スタンプや自分たちで作った切手を使って、小さい子に配達する姿も見られるようになる。カルタをして取った枚数を競争する中で、悔しさも経験しながら、互いに認め合う言葉が出てくるようになる。
- ◆ 歌をきっかけに、寒いと自分の吐く息が白いことに気付いたり、日向と日陰の気温の差を敏感に感じたりしてくる。鳥小屋の水が凍る様子を友達に伝え、自分たちでも容器に水を入れて氷作りをするようになる。クレープ紙で色を付ける幼児もいる。お別れ遠足では、福寿草や梅の花を見付け季節の移り変わりを感じる幼児もいる。
- ◆ 自分で生活のリズムを整えることに関心をもつようになる。
- ◆ 5年生や1年生との交流で、小学校の施設を見学したり、給食と一緒に食べたりして、入学を楽しみにするようになる。「もうすぐ1年生」をテーマにした壁面製作でも、自分のランドセルの色を伝え合う姿が見られる。好き嫌いが少なくなるようにと、みんなで同じものを食べる取組は行うが、中には給食を中心に学校生活に不安を抱く幼児もいる。しかし、周りの人に支えられて自信をもって過ごすようになってくる。